



KDDI Web Communications

# 全社VDI基盤を HPE SimpliVity 325 Gen10で再構築 働き方改革を下支えする快適な テレワーク環境を確立

大幅なレスポンス向上と運用効率化に成功  
圧縮・重複排除によるリソース有効活用も実現

## 業界

IT

## 目的

全社 VDI 基盤のパフォーマンス不足を解決し、全ての社員がいつでも・どこでも快適に業務を行える環境を実現すること。

## アプローチ

「AMD EPYC サーバー・プロセッサ」を搭載した「HPE SimpliVity 325 Gen 10」を新たに導入し、構築期間やコストを抑えつつ VDI 基盤の性能・信頼性・拡張性を改善する。

## IT の効果

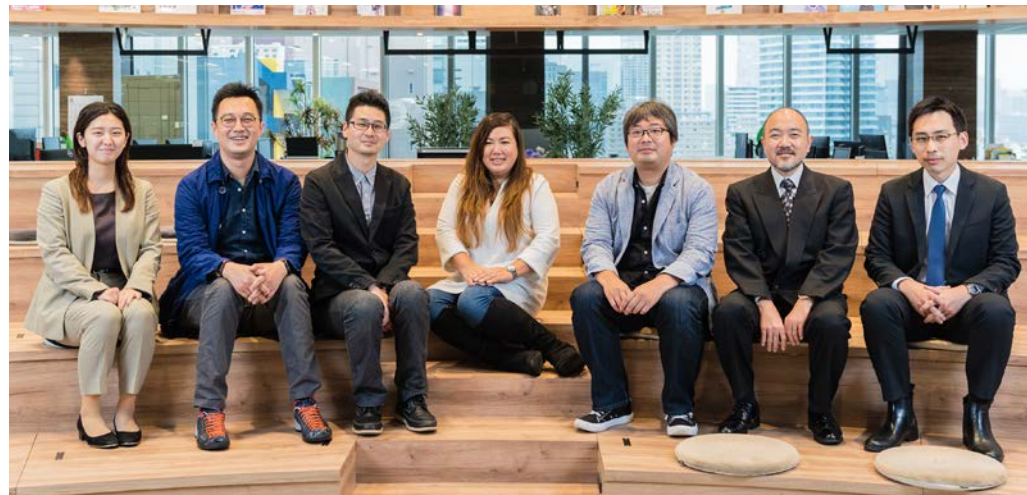
- 「HPE SimpliVity 325 Gen10」による新 VDI 基盤を構築
- 圧縮・重複排除機能により、ストレージ消費量を約 1/3 に削減
- ラックスペースを 2 ラックから 1 ラックへと半減させることに成功
- 他の物理サーバーや仮想化基盤も集約シンプラの最適化を加速

## ビジネスの効果

- 仮想デスクトップの提供時間を従来の 1 日から 1 時間へと大幅に短縮
- 自宅や外出先でも社内と全く同じ環境で仕事ができる環境を実現
- アプリケーションのレスポンスを従来の 1/10 以下に改善
- Web 会議などの重いアプリケーションも動作させることが可能に

※各種サービスの詳細については、株式会社 KDDI ウェブコミュニケーションズのホームページにてご確認ください。

<https://www.kddi-webcommunications.co.jp/service/>



**KDDI グループでホスティングや Web サービスなど様々なサービスを取り扱う KDDI ウェブコミュニケーションズでは、全社の業務活動を支える仮想デスクトップ（以下、VDI）基盤の再構築を実施した。旧システムは性能・信頼性の両面で既に限界に達しており、コロナ禍に伴うテレワークユーザー数増加への対応も困難な状況であった。そこで同社では、日本ヒューレット・パカード（以下、HPE）の「SimpliVity 325 Gen 10」を新たに導入。Web 会議システムなどの重いアプリケーションも快適に動作させられる環境を実現すると同時に、リソース有効活用や省スペース化など様々なメリットを実現している。**

## コロナ禍によるテレワークユーザー数増加に伴い旧 VDI 基盤のパフォーマンスが限界に

東京都・港区に本拠を置く KDDI ウェブコミュニケーションズは、KDDI グループでホスティングや Web サービスなど様々なサービスを取り扱う企業である。主軸事業のクラウドホスティング事業では、20 年以上の歴史と実績を有する高品質ホスティングサービス「CPI」を提供。レンタルサーバーやマネージド専用サーバー、root 権限付き専用サーバーなど多彩なメニューを用意しており、Web サ

イト / Web アプリケーション開発会社や大手企業、官公庁、外資系企業など幅広い企業で活用されている。

同社の C-SIR 推進室 阿部 洋介氏は「当社では、創業時から中堅・中小事業者の皆様のビジネスを支えることを重視してきました。そこで、無料ホームページサービス「ジンドゥー」やクラウド電話 API サービス「Twilio」、ビジュアルブログサービス「g.o.a.t」など、高度な専門知識不要でお使い頂ける Web サービスもご提供しています」と説明する\*。

今回はできるだけ短期間で新 VDI 基盤を稼働させる必要がありましたので、既存の 100V 設備をそのまま使えたのは大きなメリットでした。圧縮・重複排除機能の効果も大きく、元データの約 1/3 程度に容量を削減できています。

－株式会社 KDDI ウェブコミュニケーションズ 管理本部 IT 管理室 ゼネラルマネージャー 角田 博康氏

旧 VDI 基盤ではユーザーから毎日のように苦情が寄せられていただけに、快適な業務環境を提供できて一安心です。今後は SimpliVity のバックアップ機能も積極的に活用し、業務効率化に役立てていきたいと思えます。

－株式会社 KDDI ウェブコミュニケーションズ 管理本部 IT 管理室 永澤 理恵氏



株式会社KDDIウェブコミュニケーションズ  
管理本部 IT管理室  
ゼネラルマネージャー  
角田 博康氏

多彩なサービスを展開する企業だけに、同社では社内情報インフラの整備も積極的に推進。KDDI ウェブコミュニケーションズ 管理本部 IT 管理室 ゼネラルマネージャー 角田 博康氏は「サーバーやクライアント、ネットワーク、開発・テスト用仮想化基盤など、社内業務で利用される環境はすべて当部門で管理しています。最近では、スピードに対する要求も一段と強まっていますので、ユーザーからの要望に迅速に応えられるよう心がけています」と語る。

に力を入れており、北海道や北関東などの遠隔地で勤務する社員もいるという。今回の VDI 再構築には、こうした柔軟な働き方をさらに加速させる意味合いもあった。

この新 VDI 基盤を支えるハードウェアとして、同社ではハイパーコンバージド・インフラストラクチャ（以下、HCI）製品に着目。角田氏は「旧環境は従来型の 3 Tier 構成で構築されていましたが、機器台数が多く場所を取る上に、トラブル発生時の対応にも手間が掛かります。その点、HCI であれば、システムをシンプルにまとめられますし、障害ポイントも減らせます」と語る。



株式会社KDDIウェブコミュニケーションズ  
管理本部 IT管理室  
永澤 理恵氏

そうした取り組みの一つが、2013 年に実施された VDI 導入だ。KDDI ウェブコミュニケーションズ 管理本部 IT 管理室 永澤 理恵氏は「東日本大震災の際に、業務に大きな混乱が生じたことが VDI 導入のきっかけです。当時は出社できなくなった社員も多く、自宅で作事をするための PC を手配するなど、当部門でも様々な緊急対応を強いられました。そこで、BCP（事業継続計画）強化の一環として、VDI を導入することにしました」と振り返る。

同社では IT パートナーである伊藤忠テクノソリューションズ（以下、CTC）に対し、新 VDI 基盤にふさわしい HCI 製品の提案を依頼。その結果、白羽の矢が立ったのが、「AMD EPYC サーバー・プロセッサ」を搭載した「HPE SimpliVity 325 Gen10」（以下、SimpliVity 325）である。CTC の橋本 明氏は、提案のポイントを「まず一点目は、高効率な圧縮・重複排除機能を備えている点です。これを利用すれば、システムのリソースを最大限に活用することができます。また、SimpliVity は、ストレージ冗長化の仕組みが他社 HCI 製品と異なっており、いろいろな意味で非常に「美しい」冗長化のデザインだと感じていました。そして今回の取り組みでは、短期導入の実現が最大のポイントでしたが、弊社では平素から様々な HCI 製品の導入を行っており、SimpliVity が最も短期間で導入できることを知っています。そこで、今回の提案に盛り込ませて頂きました」と語る。また、同 小堀 春菜氏も「もう一つのポイントとなったのが、100V 電源で動作する点です。200V 電源の製品だと、データセンター側で電源工事を行わなくてはならず、それだけコストも構築期間も増えてしまいます。その点、100V 対応の SimpliVity 325 であれば、既設のラックにそのまま収容することができます」と語る。



株式会社KDDIウェブコミュニケーションズ  
管理本部 IT管理室  
角谷 健史氏

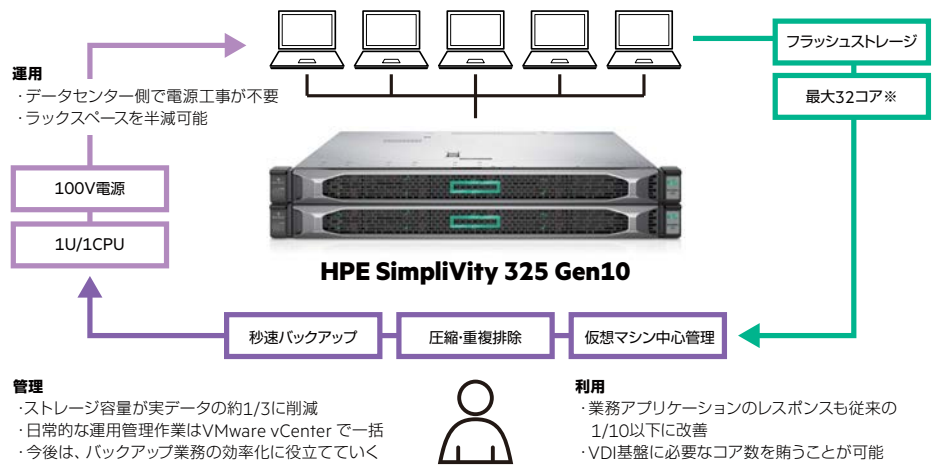
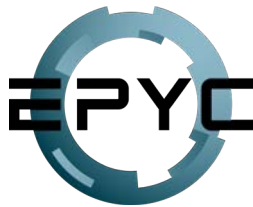
当時導入したハードウェアもそろそろ更新時期を迎えたことから、今回同社ではリプレースに向けた検討に着手。ところが、その最中に直撃したのが今回のコロナ禍である。永澤氏は「BCP のために作ったシステムなので、全社員が一斉に利用するような事態は想定していません。このためユーザーからも、システムが遅いというクレームが頻発。急いで新しい VDI 基盤を整備する必要に迫られました」と明かす。

### 圧縮・重複排除機能や 100V 対応を評価し「HPE SimpliVity 325」を新たに採用

そもそも VDI の見直しにあたっては、テレワーク/リモートワーク環境のさらなる充実が大きなテーマとして掲げられていた。「その理由の一つは東京五輪です。当社は競技会場に近いので、開催期間中は出社が難しくなる可能性も考えられます。このため、より多くの社員が自宅でも仕事ができるようにする必要があったのです」と角田氏は説明する。元々、同社では早くから働き方改革

「当社としても、今回はできるだけ早く新 VDI 基盤を導入したかったのですが、電源工事が不要というのは大きかったですね。他社 HCI 製品も一応チェックしましたが、SimpliVity は管理画面が分かりや





※導入時点での最大コア数。現在は最大64コア



伊藤忠テクノソリューションズ株式会社  
情報通信第2本部  
システム技術第1部 技術第5課  
主任  
橋本 明氏



伊藤忠テクノソリューションズ株式会社  
システム技術第2部 技術第3課  
宮下 直記氏



伊藤忠テクノソリューションズ株式会社  
情報通信第2本部  
通信キャリア営業第1部  
システム営業第2課  
小堀 春菜氏

ずく、直感的に操作できます。これまでに導入した HPE 製品の品質も高く評価していますので、新 VDI 基盤への採用を決めました」(角田氏)。

### インフラの短期構築に成功 懸案の性能問題も完全に解決

こうして SimpliVity 325 の導入に踏み切った同社では、早速新 VDI 基盤の構築を開始。CTC の宮下 直記氏は「今回はできるだけ短期間で新 VDI 基盤を稼働させる必要がありましたので、当社としても万全の体制を用意。ご購入頂いた製品を一度当社に持ち込んで初期構築やテストを済ませるなど、データセンターに設置されてからの作業をできるだけ少なくするようにしました」と説明する。ここでも、SimpliVity 325 のシンプルさが大きく貢献。アプライアンス感覚で容易にインストールやセットアップが行えるため、当初予定の半分の期間でインフラの構築を終えられたとのこと。もちろん、SimpliVity に関する CTC の豊富なノウハウや知見も最大限に活かされている。

KDDI ウェブコミュニケーションズ 管理本部 IT 管理室 角谷 健史氏は「非常にタイトなスケジュールの中での作業でしたが、プロジェクト全体を適切にマネジメントしてもらえましたので心強かったですね。VDI は当社の重要な業務基盤ですので、いろいろと無理をお願いする場面もありましたが、柔軟に対応してもらえて大変助かりました」と満足げに語る。

その結果、SimpliVity 325 による新 VDI 基盤は 2020 年 7 月より無事本番稼働を開始。旧環境には一部の業務サーバーも載せられていたことから、VDI 基盤用として 5 台、業務サーバー用として 4 台と合計 9 台の SimpliVity 325 が導入されている。ちなみに、1CPU あたりのコア数が少ない場合には、サーバーに複数の CPU を搭載しな

くてはならず消費電力も増えてしまう。その点、SimpliVity 325 の心臓部である AMD EPYC サーバー・プロセッサは、1CPU で最大 32 コア(注: 導入時点での最大コア数。現在は最大 64 コア)を利用できる。これにより CPU の数が減らせるため、100V での動作が可能なのである。

SimpliVity 325 のパフォーマンスに対しても、非常に高い評価が寄せられている。「旧 VDI 基盤での業務を強いられていた頃には、ほとんど毎日のようにユーザーからの苦情や問い合わせが寄せられていました。『端末がなかなか起動しない』『Windows Update で止まってしまったから、すぐに管理者側で再起動して欲しい』といった要望に、延々と対応し続けていたのです。ところが、SimpliVity 325 を導入してからは、こうした声が一切挙がらなくなりました」と永澤氏はにこやかに語る。

また角田氏も「旧 VDI 基盤用のストレージが HDD 構成だったのに対し、今回の SimpliVity 325 はオールフラッシュ構成です。これにより、システムの I/O 性能が劇的に向上し、業務アプリケーションのレスポンスも従来の 1/10 以下に改善。快適に仕事ができるようになったと、ユーザーからも感謝してもらいました」と語る。

### 新規仮想デスクトップを 1 時間で提供 Web 会議も快適に行うことが可能に

SimpliVity 325 を導入したことで、同部門の業務にも様々なメリットがもたらされている。角谷氏は「たとえば、ユーザーに仮想デスクトップを提供するまでの時間が飛躍的に短縮されました。以前は 1 台分の環境を作成するのに数時間を要していたため、翌日まで待っていただかなければなりませんでしたが、現在では同じ作業が数十分で済みますから、1時間もあれば環境を用意できます」

仮想デスクトップの作成時間が丸一日から一時間に短縮されるなど、ユーザーへのサービスレベル向上に役立っています。社員に喜ばれるシステムを実現できたという面でも、今回のプロジェクトは大成功でした。

– 株式会社 KDDI ウェブコミュニケーションズ 管理本部 IT 管理室 角谷 健史 氏

「HPE SimpliVity 325 Gen 10」による新 VDI 基盤が稼働したことで、自宅や外出先でもより快適に仕事が行えるようになりました。Web 会議などの重いアプリケーションも軽快に動作しますので、大変便利になりましたね。

– 株式会社 KDDI ウェブコミュニケーションズ C-SIR 推進室 阿部 洋介 氏

## 導入製品/サービス

### 導入ハードウェア

- HPE SimpliVity 325 Gen 10
- HPE SimpliVity 380 Backup and Archive



### HPE × AMD パートナー倶楽部

「AMD EPYC」を搭載したHPEサーバーをお求めのお客様は、AMDサーバーについて高いご提案スキルをお持ちのHPE×AMDパートナー倶楽部参加パートナーへご連絡ください。

“HPE × AMD パートナー倶楽部”

参加パートナーはこちら

[hpe.com/jp/amd-partner](https://hpe.com/jp/amd-partner)

スマートフォン、タブレットからのアクセスはこちら



### お問い合わせはこちら



カスタマー・インフォメーションセンター

**0120-268-186**

(または03-5749-8279)

Call

月曜日～金曜日 9:00～19:00

(土曜日、日曜日、祝日、年末年始、および5月1日お休み)

日本ヒューレット・パッカード株式会社  
〒136-8711 東京都江東区大島 2-2-1

と胸を張る。こうしたスピーディな対応が行えるのも、SimpliVity 325 の圧縮・重複排除機能があればこそ。ストレージ容量についても、実データの約 1/3 に容量を削減できており、今後の台数増加にも余裕で対応できる。また、日常的な運用管理作業も VMware vCenter で一括して行えるため、新たなツールの操作方法を習得したりする必要もない。

「信頼性・可用性が大きく向上した点もメリットの一つですね。旧環境はとにかく他社ストレージにまつわるトラブルが多く、毎月のようにディスクを交換していました。しかし、SimpliVity 325 を導入してからは、インフラに全く手が掛からなくなりました」と角田氏は語る。ちなみに、旧環境のサーバーには HPE のブレードサーバーを採用していたが、こちらについては 7 年間ノートラブルだったとのこと。角田氏は「スペースも以前の 2 ラックから 1 ラックへと半分に減りましたので、空いたスペースを他の用途に活用できます。」と続ける。

なお、今回同社では、本番環境用の SimpliVity 325 に加えて、筐体間バックアップ/DR を手軽に実現できるセカンダリストレージ専用モデル「HPE SimpliVity 380 Gen10 Backup & Archive」も同時に導入している。今後はこちらも積極的に活用し、バックアップ業務の効率化に役立てていく考えだ。

さらに、もう一つ見逃せないのが、働き方改革への貢献である。最近では、オフィスソフトなどの基本的な業務アプリケーション以外に、動画や Web 会議などを仕事で利用するケースが珍しくなくなっている。しかし、旧 VDI 基盤の性能では、こうした重いアプリケーションやサービスを快適に動作させることができなかった。このため、自宅から Web 会議に参加する際には、タブレットやスマートフォンなどを別途用意する必要があったという。「その点、現在では、こうしたものも至って普通に利用できます。VDI から直接インターネットに抜けられるようネットワーク設定も改めましたので、社内でも社外でも全く同じように仕事ができます。VDI だからという制限が一切無くなったことは非常に大きいですね」と阿部氏は語る。同社ではこの利点を最大限に活かし、より自由で柔軟な働き方を推進。また、社内に残っている物理サーバーや別の仮想化基盤を SimpliVity 325 に集約することで、インフラ環境のさらなる最適化も進めていくとのことだ。

## 詳しくはこちら

[hpe.com/jp/simpliVity](https://hpe.com/jp/simpliVity)

© Copyright 2020 Hewlett Packard Enterprise Development LP

本書の内容は、将来予告なく変更されることがあります。日本ヒューレット・パッカード製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。日本ヒューレット・パッカードは、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱字に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

AMD、AMD Arrow のロゴ、AMD EPYC、その組み合わせは、米国および/または他の地域での Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

CPX13348-01 記載事項は個別に明記された場合を除き2020年12月現在のものです。